

勝林寺文報

なくとも老と死とのおとろえからまぬがれることはできません。死期がせまつてくると五衰といつて身体やくらしのうえに五つのおとろえがあらわれてくるといわれています。

ふたとび二悪道に還来しないような人生、寂無<sup>ひむ</sup>の如米さまの世界に往き生れることをこそ願わなければならないのです。それが、それひとつが人間に生まれた「生きがい」です。

十月のこよみ

仏教では、わたしたちは自ずから行動（カルマ）・業といいますが）によつてさまざまな世界を作りしそのなかにくらしてゆくものと教えます。たとえば、自からの立場に固執して人を踏みつけ対立し争そうという業（おこない）のなかから「地獄」という世界をつくりそのなかに住むこともあります。また、あくことのない我欲を燃しつゝけしまつねに満足がなく飢餓の世界に住まなければならぬこともあります。「餓鬼道」という世界です。さらにはたわたしたちは、みずからの行為に対してはじることなく、たゞその瞬間を生きている「畜生」の道を生きることもあります。愚痴の世界です。「修羅」という世界があります。あの修羅の陰気な青白い苦惱の面をごらんになつたでしよう。いつも心のなかに矛盾をいたき深刻な苦しみのなかでくらさねばならない世界です。

これらの世界のはかに「人間界」と「天界」とが考えられています。

「天界」は性欲や食欲などを離れたいわば神々たちのくにです。人間のいわば理想の世界のようでもあります。がしかしこの天人もどんなに歡樂極り

速以疑惑為所止 疑うつみのあればなり  
速入寂靜無樂 さとりの國にうまるよ  
必以信心為能入 たゞ信心にきわまりぬ  
　　わたしたちはいま人として生きており  
　　いま人としてあるということには、どう  
　　味と価値があるのでしようか。  
　　わたしたちの祖先は、仏様のおしえのな  
　　いわゆる人生に、なみなみではない慈悲

いまわたしは「人間」に生れています。  
私もこの人に生れるまでにはおそらく数々の世界に往つたり還つたり去つたり来たりみずからのみ「業」によつて数々あまたの世界を経めぐつてきていたのに違いありません。そのいちばんの証拠にいま人と生れたこのいまのわたしにも、まだあの地獄・餓鬼・畜生の名残りが残つていて折にふれ時にあたつてくすぶり出し燃え出してくるではありますか。

法然上人は、三悪道にとどまる原因となる業は「疑い」であり、如来さまの寂靜無為のみやここに生れかわる原因となる業は「信心」だけしかないのですよと教えてくださいます。

「疑う」とはなにを疑うことか、「信する」とはなにをどのよう信じることなのでしょう。」「法然さまはこのようにおつしやるのです。

人間は三界六道（地獄・餓鬼・畜生を三界、その他天上までをひつくるめて六道）の世界と、それを超えた寂靜無為の樂とよばれる如來さまの世界とのわかれ道・境い目にあるところの「境界人」として生きているのです。  
ことばをかえていうと人間の業・わたしのしづさによつて、またまた三惡道という浅間しい世界にふたゝび還來かえつていかなければならぬ人と、みづから行為によつて三界六道を超えて寂靜無為のみやこである如來さまのいのちに生れかわる（これを往生といいます）こともできる大切なわかれ道に立つてゐるのがわたしという人間なのです。  
そういう意味からいつて人のいのちを生きるといふことは、どうしても取り落してはならない大事な価値と意味とがあるのです。「後生の一大事」といわれています。  
せつかく、この生れがたい人間に生れたからには、意味ある人生価値ある人間として生きなければなりません。

しかしまた一方、いま人間であるわたしの業に  
上つてはながく車の輪をころばすようにな限なく  
生死輪転をかさねてきた三悪道（地獄・餓鬼・畜生の世界のことをとくにそうよびます）をのが  
れ出て、欲やいかりや憎しみなど（三毒の煩惱と  
よんでいます）にさいなまれない、つまりそのよ  
うな業煩惱によつてつくり出されない寂靜（しず  
かな安らぎ）の世界（これをアサンスクリタ・無

人間は三界六道（地獄・餓鬼・畜生を三界、その他天上までをひつくるめて六道）の世界と、それを超えた寂靜無為の樂とよばれる如来さまの「世界とのわかれ道・境い目にあるところの『境界人』として生きているのです。  
ことばをかえでいうと人間の業・わたしのしわざによつて、またまた三惡道といふ浅間しい世界にふたゝび還來かえつていかなければならぬ人と、みずから行為によつて三界六道を超えて寂靜無為のみやこである如来さまのいのちに生れかわる（これを往生といいます）こともできる大切なわかれ道に立つてはいるのがわたしという人間なのです。

本願力（他力）のなかでの親子の出会い（信心ひとつで仏力にからめとられての往生なのです。)  
法然さまはくりかえしくりかえしそのように「  
死<sup>出</sup>すべき道」をお示しくださいました。

三日	○本山教師検定講習会講師、「連研 補講」
四日	石田義雄氏宅入仏法要
五日	勝林寺仏社理事會・福井教区連研從事者研修会講師
六日	兵庫教区連研從事者研修会講師
七日	出石組連研終了式(本山)
八日	長崎西教区淨願寺仏婦本廟研修講師
九日	上に同じ・前住職祥月命日・出石組住職会
十日	玉日会・十六夜会
十一日	神戸応聲寺報恩講説教
十二日	前に同じ・教区長期計画委員会
十三日	兵庫教区教務所・
十四日	永井五生氏宅法事・福木靖彦氏宅法事
十七日	西山真澄氏宅法事
十九日	古田耕三氏宅法事
二十日	本願寺仏婦のつどい(大阪)
二十一日(二十三日)	草津順光寺報恩講説教
二十六・七月	眞覺寺報恩講
二十七・八日	長寿寺報恩講
二十八・九日	勝林寺仏社ソフトボール大会・別荘報恩講
二十九・三十日	西方寺報恩講
三十一日	兵庫教区仏婦創立百五十周年記念大

